

保育内容を実践に生かす取組としての幼児教育祭 その2

- 保育内容の理解を深め、実践につなげるために -

岸本 美紀*・妹尾美智子*・鳥居 恵治*・大岩みちの*
佐善 圭*・山田 悠莉*・水谷 誠孝**・本山 益子***

要 旨

「保育内容総合」の授業担当者である我々は、ティームティーチングによって、学生が保育内容5領域を総合的に捉える学習のプロセスを支えてきた。毎授業後に実施する振り返り記録の結果から、授業や当日の発表を経験することで学生が保育内容や留意点を実感する度合いを強め、保育内容を実践的に捉えていくことが分かった。また、そのプロセスや実感の程度は、発表形式やクラスによって特徴があることが改めて明らかになった。このことから、それぞれの発表形式やクラスの特徴を踏まえた指導を行うことの重要性が理解できた。

Abstract

The authors, giving tuition in "Comprehensive Day-Care Study," have helped their students comprehensively grasp the day-care contents through team teaching. The post-class review records show that their students have realized the day-care contents and notes through the class and in-class presentation and that the learning process and the realization degree are characterized by difference in the presentation style and the class. From these findings, the authors have understood the teaching significance according to these characteristics.

I. はじめに

筆者らは、本校における「保育内容総合」の授業担当者であり、チームティーチングによって、学生が保育内容を総合的に捉える学習のプロセスを支えてきた。そして、「幼児教育祭」を「保育内容総合」の授業成果の発表機会とし、「幼児教育祭」に至るプロセスや「幼児教育祭」の効果を重視しながら学生を指導している。

この長年に亘る取組の中で、舞台発表を作り上げていく過程において学生は、表現力の向上だけでなく、自分たちで実施していく経験の中で生じてくる仲間との協力・軋轢などを通して、自律的な協働関係を経験し、企画力・運営力・人間関係力なども身につけていくことに気づいている実態が明らかになった。また、保育内容を取り扱う際の留意点をどの程度意識・体験したか尋ねたところ、学生達の体験や意識は表面的な体験にとどまらず、充実感や存在感などの実感を伴う深い体験であることが分かった。

以上のように、筆者らは「保育内容総合」での取組や「幼児教育祭」を経験することによる学生の育

ちを把握し、この実践によって学生が保育内容を総合的に捉えることができるように指導を心がけてきた。その中で、先行研究では「保育内容5領域が活動に含まれる実感度」、「保育内容を取り扱う際の留意点を意識・体験した程度」について、発表形式による相違点、また共通点を見出すことができたが、学生の学びを深め、授業における育ちを引き出す指導を考えた時、このことは、クラス固有の特徴なのか、発表形式の影響を受けているのか、さらに分析することが今後の課題として考えられた。そのため、本研究では先行研究を継続し、学生が保育内容を理解するプロセスに影響を与える要因について、さらに検討を行うものである。

また、学生の保育内容を理解するプロセスを検討する際において、影響を与える要因について新たな視点で検討を試みたいと考えた。そこで、学生それぞれの保育内容5領域についての理解度と「保育内容総合」に対する期待度に注目し、保育内容の実感度などに与える影響について分析することで、影響を与え合う要因を把握したいと考える。

* 岡崎女子短期大学幼児教育学科

** 岡崎女子短期大学非常勤講師

*** 京都文教短期大学

Ⅱ. 研究方法

1. 対象

平成20年度幼児教育学科第一部2年生

舞台発表選択 3クラス 117名

・Aクラス

演目：シンドバッドと魔法の書

・Bクラス

演目：白雪姫～まほうのかみがみ～

・Lクラス

演目：くるみ割り人形

フロアー劇選択 1クラス 38名

・Dクラス

演目：ドロシーの冒険

～勇気という魔法～

運動遊び選択 2クラス 77名

・Cクラス

・Kクラス

テーマ：アドベンチャーワールド

2. 手続き

以下に示す記録を学生に課した。

(1)「保育内容総合」開始前の記録（5段階尺度法）

①「保育内容」5領域それぞれの理解度を自己評価

②授業で「保育内容」が学べることの期待度について評価

(2)毎授業後実施の記録（5段階尺度法）

2008年11月17日から2009年2月15日までの
毎授業後 合計10回実施

①活動に「保育内容」5領域が含まれる実感度を自己評価

②幼稚園教育要領の中に示された「内容の取り扱い」についての留意点（表1）を意識・経験した程度を自己評価

表1 授業「保育内容総合」における、
保育内容の意識・経験の程度

- | |
|---|
| <p>①関わった人たちとの温かい触れ合いの中で
自己の存在感や充実感を味わう</p> <p>②興味や関心、能力に応じて全身を使って
様々な活動に取り組む</p> <p>③体を動かすことの楽しさを味わい自分の体
を大切にする</p> |
|---|

- | |
|--|
| <p>④自らが周囲に働きかけることにより多様な
感情を体験する</p> <p>⑤試行錯誤しながら自分の力で行うことの充
実感を味わう</p> <p>⑥人とかかわることの楽しさや大切さを味わ
う</p> <p>⑦伝え合い共感し合うことなどを通して自分
からかかわろうとする</p> <p>⑧ものを大切にする気持ち、公共心を養う</p> <p>⑨数量などに関する興味、関心、感覚などを
無理なく養う</p> <p>⑩自分の感情や考えを伝え合う喜びを十分に
味わう</p> <p>⑪絵本や物語などに数多く出会い豊かなイメ
ージをもつ</p> <p>⑫文字に対する興味や関心、感覚を無理なく
養う</p> <p>⑬美しいもの、優れたものなど様々なことに
出会い、そこから得た感動を他者と共有し
様々に表現する</p> <p>⑭自ら様々な表現を楽しみ表現する意欲を十
分に発揮する</p> <p>⑮特定の技能を身につけようとする。</p> |
|--|

なお、⑮「特定の技能を身につけようとする」については、子どもたちには直接求めないようにしたいことであるが、保育を実践するために養成の過程で身に付けておくことが望ましいと思われたため、加えた項目である。

(3)「保育内容」について（自由記述）

①「保育内容」の理解について

保育内容5領域がどの程度活動に含まれていたか、またその具体的な活動について

②「保育内容」のとらえ方について、学んだこと

3. 記録の分析

学生の記録をもとに、(1)～(4)の分析を行った。

- (1)保育内容の領域別における変化と特徴
- (2)留意点の変化と特徴
- (3)事前に調査した理解度と期待度との関連
- (4)「保育内容」のとらえ方について

4. 統計処理

平均値の差の検定には、t検定、一元配置分

散分析、二元配置分散分析を、独立性の検定には χ^2 検定を用いた。分析には、統計ソフトSPSS10.0Jを使用した。

Ⅲ. 結果と考察

1. 領域別における検討

1) 全体の特徴

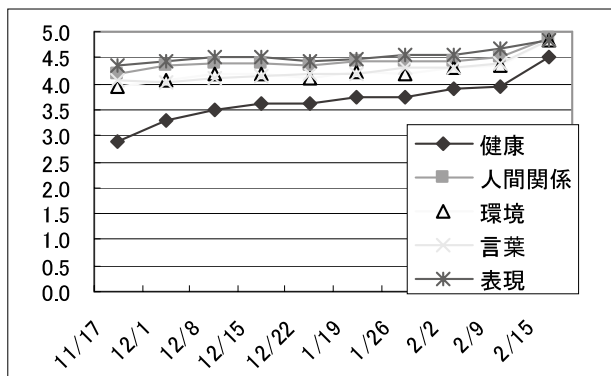


図1 領域別平均値の推移

「幼児教育祭」当日がどの領域も最高値となったこと、また、「健康」領域が含まれる実感度が低いことは、昨年度と同様の結果であった。しかし、「健康」領域は、1.63点増加し、5領域中一番増加した。このことは、回数を重ねる中で身体を動かす機会が増えたことや、本番に向けて体調維持の大切さを理解していったことが推察される。

2) 発表形式別の比較

振り返りの記録を実施した全10回において、「舞台発表」「フロアー劇」「運動遊び」それぞれの平均点を比較すると、「健康」：8回、「人間関係」：7回、「環境」：5回、「言葉」：10回、「表現」：10回、1%もしくは5%水準で有意差、または有意傾向が見られ、発表形式によって「保育内容」の実感度に差があることが理解できた。

以下に、「保育内容」5領域それぞれの、発表形式における比較を示す。

①「健康」領域における比較

図2から、「運動遊び」の実感度の低さが分かるが、「舞台発表」や「フロアー劇」と比べ、本番までの準備で身体を使ったり、身体で表現したりする機会が少ないことが影響していると推測される。しかし、「運動遊び」は、当日の実感度の伸びがとて大きく、当日子どもとかわりながら「健康」領域を実感していることが理解できる。

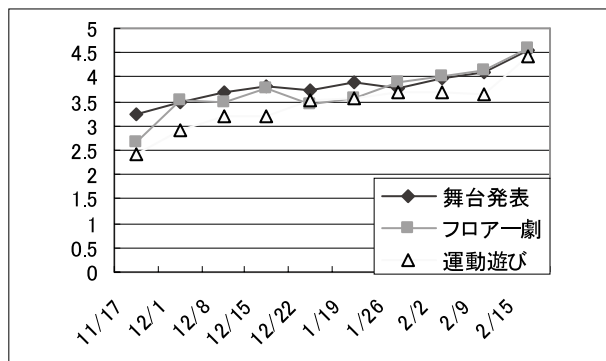


図2 「健康」領域 発表形式別平均値の推移

②「人間関係」領域における比較

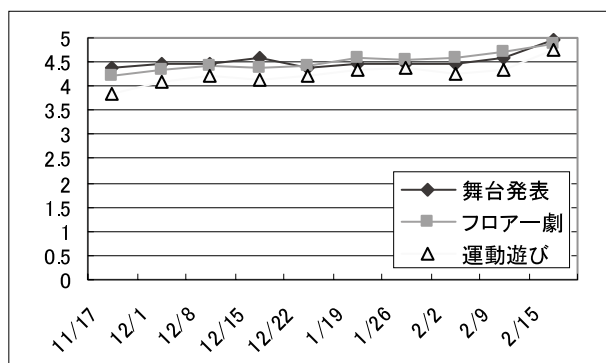


図3 「人間関係」領域 発表形式別平均値の推移

「人間関係」領域では、全10回のうち7回で発表形式における比較で有意差や有意傾向が見られたが、図3から分かるように、発表形式が異なっても似たような推移をたどり、発表形式による大きな差が見られない。また5領域の中で初回から常に高い数値を保ち、どの発表形式でも比較の実感されやすいことが理解できる。

③「環境」領域における比較

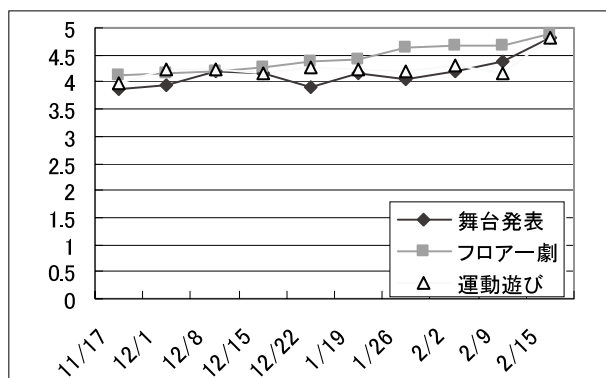


図4 「環境」領域 発表形式別平均値の推移

「環境」領域では、他の領域と比較すると、最も有意差・有意傾向が少ない領域ではあるが、授業後半において「フロアー劇」の特徴が見られる。

子どもが観る空間、照明など、環境ができあがっていくプロセスが影響していることが推測される。

④「言葉」領域における比較

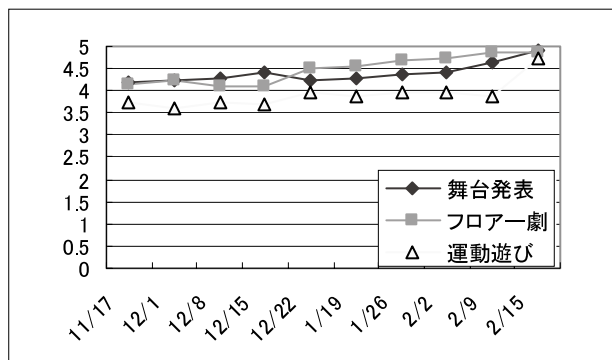


図5 「言葉」領域 発表形式別平均値の推移

図2の「健康」領域と同様に「言葉」領域でも、「運動遊び」における幼児教育祭までの低さと当日の実感度の高さが見られる。子どもと直接関わり、言葉を交わすことによる実感の大きさがうかがわれる。

⑤「表現」領域における比較

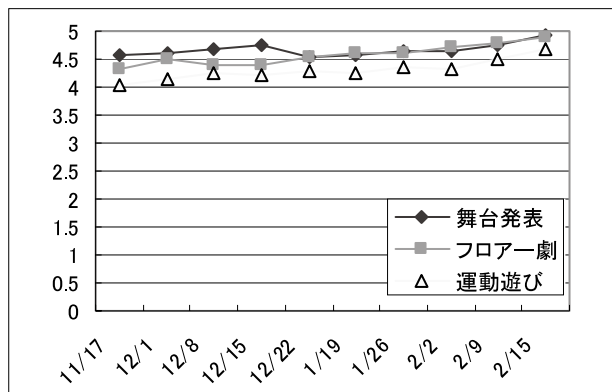


図6 「表現」領域 発表形式別平均値の推移

「表現」領域は、全10回で発表形式による有意差・有意傾向が見られたが、「舞台発表」が前半高い数値を示すものの、徐々に他の発表形式との差が縮まっていることが理解できる。

3) 発表形式内での比較

発表形式によって保育内容の実感度に差があることが分かったが、「舞台発表」を選択した3クラス、「運動遊び」を選択した2クラス内で分析を行うと、「舞台発表」、「運動遊び」とともに、領域によってはクラスにおける差が見られ、クラス

の特徴があることが分かった。

以下に、「舞台発表」3クラス、「運動遊び」2クラスでの比較において、特徴的な結果を示す。

①「舞台発表」担当クラスでの比較

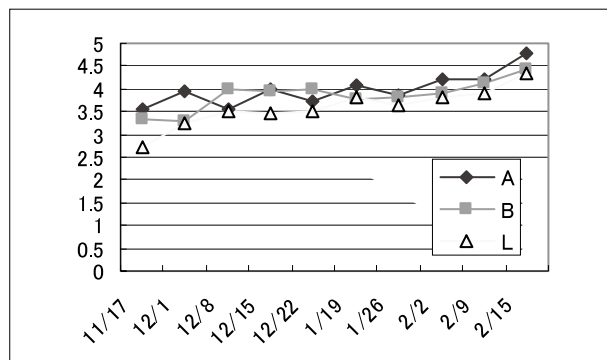


図7 舞台発表担当クラスでの比較（「健康」領域）

「舞台発表」を担当した3クラスのクラス別「健康」領域の平均値の推移を見てみると、クラスの特徴がうかがわれる。約1点の差が見られる日もあった。

②「運動遊び」担当クラスでの比較

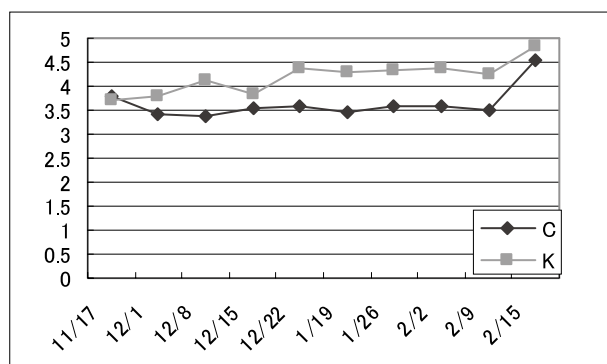


図8 運動遊び担当クラスでの比較（「健康」領域）

「運動遊び」を担当した2クラスを見てみると、「言葉」領域が一番顕著であったが、2クラスの差がかなり大きいことが分かった。同じような活動をしていても、クラスの実感度が異なることが理解できた。

2. 留意点における検討

図9から明らかのように、15項目全てにおいて、「幼児教育祭」当日が平均値の最高値を示した。このうち、10回の中で一番増加したのは③「体を動かすことの楽しさを味わい自分の体を大切にしようとする」であり、1.36点増加した。そして、⑫「文字や物語などに数多く出会い豊かなイメー

ジを持つ」(1.26点) ⑮「特定の技能を身につける」(1.21点)と続いた。このことから、活動をする中で、ただ技能を身につけるだけでなく、身体を動かす楽しさを感じながら体験していたことがうかがわれる。またここから、「健康」領域の実感度の増加との関連も推察できる。そして、⑫は、初回一番数値が低い項目であったが、活動において身体感覚だけではなく、文字への興味や関心、感覚も、身につけていくものとして捉えられたのではないかと考える。

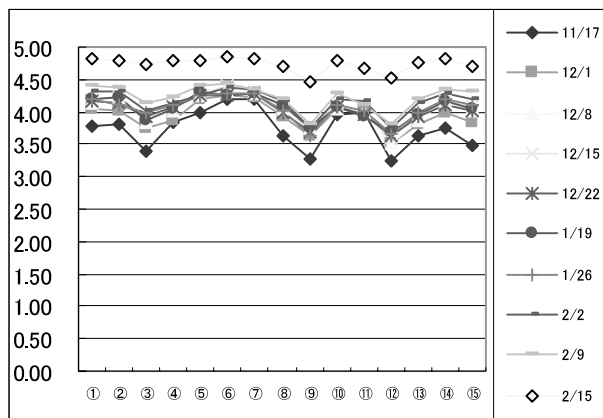


図9 留意点における平均値の推移

表2 留意点における有意差・有意傾向の数

	発表形式別		クラス別	
	有意差・有意傾向の合計	有意差の数	有意差・有意傾向の合計	有意差の数
①	4	2	8	6
②	5	5	9	8
③	9	9	10	10
④	2	1	7	5
⑤	3	3	5	4
⑥	3	2	3	2
⑦	2	0	5	4
⑧	6	4	6	6
⑨	8	6	8	7
⑩	3	3	8	5
⑪	4	4	7	6
⑫	7	5	9	7
⑬	8	7	10	10
⑭	8	8	10	10
⑮	9	9	10	10

(濃い網掛けは最高値、薄い網掛けは最低値を表す)

また、表2から分かるように、留意点について、発表形式のみならず6クラスにおける検討でも有意差、有意傾向が見られた。

そして、発表形式別、クラス別でも差が一番出る項目は、③「体を動かすことの楽しさを味わい自分の体を大切にしようとする」であり、一方、ともに差が出ないのは⑥「人とかかわることの楽しさや大切さを味わう」であった。このことから、人とかかわることについては、発表形式やクラスの違いに影響をされず、意識・体験していることが確認できた。

3. 事前の「理解度」、「期待度」との関連

事前に調査した、「理解度」、「期待度」とともに、発表形式による有意差や有意傾向が見られ、特に「期待度」については、5領域全てで有意差や有意傾向があった。6クラスでの比較においても同様の結果となり、クラスの特徴が影響していることがうかがわれた。

表3 保育内容についての理解度の平均値

	A (舞台)	B (舞台)	C (運動)	D (フロアー)	K (運動)	L (舞台)
健康*	3.76	3.53	△3.86	▼3.42	3.52	3.67
人間関係	3.9	3.75	▼3.64	3.78	△3.84	3.83
環境**	3.83	▼3.56	4.03	3.69	△4.26	3.8
言葉	3.78	3.64	▼3.61	▼3.61	3.65	△3.83
表現*	4.07	4.03	4.22	▼3.81	△4.29	4.03

(** p<.01, * p<.05) △は最高値、▼は最低値を示す。

「理解度」については、自分たちは理解していると自己評価しているクラスと、自信のなさうかがわれるクラスがはっきり分かれている。

表4 「保育内容総合」への期待度

	A (舞台)	B (舞台)	C (運動)	D (フロアー)	K (運動)	L (舞台)
健康*	3.71	△3.86	3.69	▼3.2	3.68	3.6
人間関係	4.56	△4.69	▼4.14	4.23	4.19	4.47
環境**	4.29	4.03	△4.42	4.11	△4.42	▼3.87
言葉**	4.46	△4.47	▼3.69	4.23	4.07	4.27
表現**	4.8	△4.86	4.44	▼4.4	4.64	4.67

(** p<.01, * p<.05) △は最高値、▼は最低値を示す。

「期待度」については、授業に対しての期待がとて高いクラスの特徴が表れている。

また、「保育内容が活動に含まれていた程度」と「留意点が活動に含まれていた程度」の10回分の合計点を算出し、理解度の高い群と低い群、期待度の高い群と低い群の差を見たところ、有意差や有意傾向が見られ、理解度、期待度ともに、高い群の総計が有意に高いことが分かった。このことから、理解度の高さ、期待度の高さが、活動で保育内容や留意点を実感することにつながると考えられる。

表5 理解度による総得点の比較

	保育内容*	留意点†
理解高群	224.47	658.07
理解低群	208.33	602.33
平均	212.74	616.40

表6 期待度による総得点の比較

	保育内容**	留意点**
期待高群	221.13	646.13
期待低群	200.63	573.07

4. 自由記録の分析

「幼児教育祭」終了後、「保育内容」のとらえ方について学んだことを、学生に自由に記述してもらった。特徴的な記述を抽出する。

*記述後のカッコ内は回答数

1) 舞台発表

Aクラス

- ・活動に5領域全てが含まれていた(7)
- ・活動には5領域が関係している(4)
- ・5領域全てが大切だと感じた(5)

Bクラス

- ・5領域全てが大切だと感じた(5)
- ・活動には5領域が関係している(4)
- ・臨機応変に対応することが大切(5)
- ・予想して行動することが大切(4)
- ・伝えることが大切(3)
- ・ねらいと内容の大切さ(2)

Lクラス

- ・5領域全てが大切だと感じた(5)
- ・活動に5領域全てが含まれていた(4)

- ・伝え方が大切(4)
- ・子どもの目線で考えることが大切(4)
- ・自分たちが楽しむことが大切(3)
- ・表現することが大切(2)
- ・受ける・送るが大切(2)
- ・臨機応変に対応することが大切(2)

2) フロアー劇

Dクラス

- ・子どもの反応に臨機応変に合わせることが大切(13)
- ・5領域全てが大切だと感じた(6)
- ・子どもの目線で考えることが大切(5)
- ・保育者の思いが大切(4)
- ・活動に5領域全てが含まれていた(3)
- ・伝え方・表現が大切(3)
- ・予想が大切(2)

3) 運動遊び

Cクラス

- ・5領域全てが大切だと感じた(9)
- ・活動に5領域全てが含まれていた(4)
- ・子どものことを考えてかかわることが大切(7)
- ・予想することが大切(3)
- ・保育をする上で大切(3)
- ・臨機応変に対応することが大切(2)
- ・安全が大切(2)

Kクラス

- ・5領域全てが大切だと感じた(10)
- ・活動に5領域全てが含まれていた(9)
- ・伝えることが大切(2)
- ・子どもへの思いが大切(2)
- ・年齢による対応の違い(2)
- ・環境構成が大切(2)
- ・子どもの個性を感じる(2)

以上のように、どのクラスでも、「活動に5領域が含まれ、相互に関係し、全て大切である」と理解している学生が多いことが分かった。

また、発表形式による特徴として、「フロアー劇」では、「子どもの反応に合わせて臨機応変に対応することが大切である」と気づく学生が多かった。このことは、目の前の子どもの反応を取り入れながら劇を展開する「フロアー劇」の特徴が反映されていると推察される。

そして、特に「運動遊び」では、他の発表形式

と異なる記述がいくつか見られた。環境や安全への配慮、子どもの発達や個々への対応についての記述である。環境や安全への配慮に関しては、改訂「幼稚園教育要領」、改定「保育所保育指針」の「健康」領域において、より重視されている部分である。「運動遊び」では、この部分を実際の体験から実感できる発表形式であることが理解できた。また、子どもの発達に応じた援助や個々への対応は、保育の基本であるが、他の発表形式と異なり、一人ひとり子どもとかがかわることができる「運動遊び」では、より学びが深まることが考えられた。

一方で「運動遊び」では、質問の回答からは逸れるが、表現するものが物や形となっているために、余韻を味わう間も無く作ったものを片付けなくてはならないことへの寂しさや不満を表している学生もいた。

IV. まとめと今後の展望

今回の検討によって、「保育内容5領域の活動における実感度」、「保育内容を取り扱う際の留意点を意識・体験した程度」とともに、当日実際に子どもたちとかがかわることが与える影響の大きさを改めて確認できた。

また、実感度の推移からは、学生が徐々に、「保育内容」が活動に含まれていることを実感していく過程や、「保育内容」5領域それぞれの理解を体験から深めていくことが理解できた。このことは頭での理解だけでなく、身体を通しての実践的な理解が可能であることの表れであり、今後の保育に生かされていくことが期待できる。

そして、学生の自由記述からは、「保育内容総合」、「幼児教育祭」での経験を通して、「保育内容」を総合的に捉えていく姿や過程が理解できた。このことから、この取組は、「保育内容」5領域それぞれの理解を深めるだけでなく、授業のねらい通り、学生が「保育内容」5領域に関連させて総合的に理解すること、つまり「総合的指導」を支えていることが分かった。

加えて、事前の保育内容の理解度や授業への期待度は、実感度に影響すると理解できたことから、活動が始まる前に学生の意欲を引き出し、それが持続していくようにすることが重要であるに違いない。

一方で、達成感を感じながらも、教員の対応への不満を示したり、発表形式に対する受け止め方が様々であったりしたことから、発表形式だけではな

く、クラスにおける意識の差や特徴、進度を把握し、学生一人ひとりに細やかな配慮をして指導することの大切さを改めて理解することができた。

以上のことから、学生は、実習において多くの経験をし、学生なりに「保育内容」を理解していたことに加えて、就職を目前に控える時期に「幼児教育祭」が実施されることによって、身体感覚のレベルで「保育内容」についてさらに理解を深めていったことが推察できた。そして、その理解について、時間を置かずに実践につなげることができるという、本校におけるカリキュラムの意味の深さを改めて感じることとなった。

今回の検討で明らかになった点を踏まえ、今後の課題として、教員自身の学生へのかかわりや指導のあり方を考えながら、「教育上のねらい」が深まるように、継続して学生への指導を行っていきたいと考える。



図10 教育上のねらいの深まり

【引用文献】

- 1) 岸本美紀・妹尾美智子・鳥居恵治他. 「保育内容総合」を通しての「気づき」－保育内容を理解するプロセス－. 全国保育士養成協議会第48回研究大会研究発表論文集. p50 - 51. 2009
- 2) 岸本美紀・長柄孝彦・妹尾美智子他. 保育内容を実践に生かす取り組みとしての幼児教育祭－「幼児教育祭」を保育現場につなげるために－. 岡崎女子短期大学研究紀要. 第42号. p 11 - 16. 2009
- 3) 鳥居恵治・長柄孝彦・妹尾美智子他. 「幼児教育祭」を保育現場につなげるために（その1）－遊び支援を意識して－. 全国保育士養成協議会第47回研究大会研究発表論文集. p118 - 119. 2008
- 4) 妹尾美智子・鳥居恵治・長柄孝彦他. 「幼児教育祭」を保育現場につなげるために（その

2) ー保育実践力の獲得をめざしてー. 全国保育士養成協議会第47回研究大会研究発表論文集. p120 - 121. 2008

- 5) 大岩みちの・妹尾美智子・本山益子. 舞台発表を通しての「気づき」(その2)ー保育内容を意識することをめざしてー. 岡崎女子短期大学研究紀要. 第41号. p 17 - 22. 2008

【参考文献】

- ・大岩みちの・妹尾美智子・本山益子. 舞台発表を通しての「気づき」(その2)ー保育内容を意識することをめざしてー. 全国保育士養成協議会第46回研究大会研究発表論文集. 2007
- ・文部省. 『幼稚園教育要領』. 大蔵省印刷局. 1998.12
- ・厚生省児童家庭局. 『保育所保育指針』. フレーベル館. 1999.10
- ・文部省. 『幼稚園教育要領解説』. フレーベル館. 1999.6.
- ・森上史朗・大豆生田啓友・渡辺英則. 『新・保育講座 保育内容総論』. ミネルヴァ書房. 2001.4
- ・高杉自子著. 子どもと保育総合研究所編. 『子どもとともにある保育の原点』. ミネルヴァ書房. 2006.6.
- ・文部科学省. 『幼稚園教育要領』〈平成20年告示〉. フレーベル館. 2008.4
- ・文部科学省. 『幼稚園教育要領解説』. フレーベル館. 2008.10
- ・厚生労働省. 『保育所保育指針』〈平成20年告示〉. フレーベル館. 2008.4
- ・厚生労働省. 『保育所保育指針解説書』〈平成20年告示〉. フレーベル館. 2008.5

【付記】

なお、この研究は、全国保育士養成協議会第47回研究発表論文集及び口頭発表を加筆修正したものである。